

地域銀行の現状と未来

小松原 宏太

【要旨】

本稿では地域銀行が人口減少や日銀による異次元緩和策等により、経営に苦しみ、大きな変革期を迎えていることを明らかにした。更に、地域銀行同士の再編や事業承継等の非金融分野の強化等の実際の取り組みと共に、課題解決策を提示する。また本論では主に広島県の企業のメインバンクとして多く利用されている広島銀行に焦点を当てて分析を行う。そして広島県の地域銀行の1つであるもみじ銀行や協働組織金融機関である広島信用金庫や呉信用金庫の分析と比較する。新型コロナウイルス感染症の影響による地域経済の停滞、少子高齢化により相続問題の増加等により、これからの地域銀行は、より一層地域経済を持続的に発展させる役割を大きく担い、金融面と非金融分野の強化が必要不可欠である。

【講評】

本論文では、地域銀行が人口減少や日銀による異次元緩和策等により、経営に苦しみ、大きな変革期を迎えている現状認識のもと、地域銀行同士の再編や事業承継等の非金融分野の強化等の取り組み状況を把握し、課題解決策を提示している。具体的には、広島県の企業のメインバンクとして多く利用されている広島銀行に焦点を当て、「もみじ銀行」「広島信用金庫」「呉信用金庫」の財務分析を中心に比較検討を行っている。この点は高く評価できる。また、新型コロナウイルス感染症の影響による地域経済の停滞、少子高齢化により相続問題の増加等により、これからの地域銀行は金融面のみならず非金融分野(相続、事業継承やSDGs対応)の強化が必要不可欠であると結論づけている。このように結論までの論理展開は首尾一貫しており、書籍、論文、データに基づいて分析した労作である。